

2017 年度活動報告 学部授業：日本語 I～IV(西宮上ヶ原)

藤原 由紀子 (関西学院大学日本語教育センター)

長谷川 哲子 (関西学院大学経済学部)

森本 郁代 (関西学院大学法学部)

日本語 I～IVは、西宮上ヶ原キャンパス(文学部、法学部、社会学部、経済学部、商学部、人間福祉学部、国際学部)の学部留学生を対象とした日本語科目である。履修対象は、日本語 I・IIが1年、日本語 III・IVが2年である。科目のローマ数字昇順に先修条件があり、いずれも必修科目として週2コマ開講されている。2017年度は、日本語 I・IIは7クラス、日本語 III・IVは6クラスを開講した。

1. 日本語 I 授業報告

【水曜授業】

大学のアカデミックな活動に参加する上で必要とされる日本語能力、およびコミュニケーション能力の習得を目的とした授業である。新聞記事などを素材に、プロセスリーディング、ジグソーリーディング等を通し内容に対する理解を深め、自分なりの問いと主張を立て論証型のレポートを作成する活動を行った。また、初年次教育の一環として、自分自身で学びを管理する「スチューデント・スキル」、社会人基礎力の礎となる「協働する力」の涵養にも力を入れた。

【金曜授業】

大学初年次でのアカデミックな活動に必要なとされる口頭表現能力の育成を中心的な目的とした。他者との協働をスムーズに進めながら授業活動に参加できることもめざした。今年度は、1)新聞記事の内容をまとめ、自らのコメントを加えて発表する、2)グループでテーマを決定して作成したポスターにより、全クラス合同でのポスターセッションを行う、の2点を主軸とした。1)2)ともに、他クラスとの合同セッションの機会を設けることにより、他クラスの学生から効果的な刺激を得る学生も散見された。

2. 日本語 II 授業報告

【水曜授業】

日本語 I では、レポート作成の指導にあたり、「構成」「緻密さ」に重点を置いたが、日本語 II ではアウトラインの見直しや問いの絞込みを繰り返すことにより、「内容」を深めていくことに力点を置いて指導した。「日本の教育格差」というテーマで、新書(橋本俊昭『日本の教育格差』、岩波書店)を中心に、雑誌の特集記事や専門書の抜粋などを読み、論点を立ててレポートの執筆を行った。また、要約の練習にも力を入れた。

【金曜授業】

大学でのアカデミックな活動に積極的に参加できるよう、聴解能力、口頭表現能力、さらに論理的思考力や批判的思考能力の涵養を目的とした。授業活動として、ディベートをとりあげた。今年度より1年次でディベート授業を取り入れることになり、ディベートが全く初めてという学生も多かったが、全クラスで同一テキストを使用することにより、ディベートの進め方や内容を一から学び、学期の最終活動としてクラス対抗のディベートを実施した。

3. 日本語Ⅲ 授業報告

【水曜授業】

大学でのアカデミックな活動に積極的に参加できるよう、聴解能力、口頭表現能力、さらに論理的思考力や批判的思考能力の涵養を目的とした。授業活動として、ディベートをとりあげた。今年度の2年生は、日本語科目としては1年次にディベートを行っていないが、所属学部の初年次科目内でディベートを経験している学生も一定数おり、ディベートを支える日本語能力はもとより、論理的、批判的思考の面にも重点を置いた。

【金曜授業】

新書をテキストとして、LTD話し合い学習法によるピア・リーディング活動を行い、テキストの理解を深めるとともに、意見や批評の論点を発見する力の養成を目指した。併せてレジュメと要約の作成を課し、内容を簡潔に要約する力と、理解した内容を分かりやすく説明する力の育成を行った。総仕上げとして1500字程度テキスト批評文の作成を通して、意見や批評を書く能力の向上を図った。

4. 日本語Ⅳ 授業報告

テーマを自分で設定し、5000字程度の小論文の作成とプレゼンテーションを行うことで、アカデミックな日本語能力及び論理的思考力、批判的思考力を養うことを目指した。水曜日と金曜日の担当者が連携し、テーマの検討、先行研究の調査、アンケート調査の実施と分析を行い、それを踏まえて小論文を書くまでの各段階を1学期間かけて実施した。新しく独創的なテーマに挑戦する意欲的な論文も見られた反面、考察の深さなど内容面をいかに高めるかが課題である。また、ピア活動に学生が意義を見出し、積極的に参加できるような活動のデザインも必要である。